

《入選》

やさしい言葉

平田小学校 4年

平石 優樹 さん

ぼくが、やさしい言葉について書こうと思っただきっかけは、学校のじゆぎようで習ったからです。そのときに、こっせつした時のことを思い出しました。

去年の冬、習い事の帰りに、自転車でこけて、いたくうごけなくてうずくまっていた時に、近くにいた大人の人に、「どうしたの？」と声をかけてもらいました。ぼくは、いたく返事ができなかつたけど、心の中は安心できました。そして家まで送ってもらいました。そのときは、外も暗く母も父もいなくて心細かったので、どうしたらいいのか分からなかつたけれど、

ど、助けてもらえて帰ることができたのでホッとして、そのときに初めてなみだが出てきました。

次の日、学校に行きギブスのでを見た友達が、声をかけてくれました。それは、「大丈夫？かばん持ったるか？」など、ぼくの体を心配してくれているのがわかるような、やさしい言葉ばかりでした。そして、うでが治るまでの二か月くらいの間ずっと、学校の行き帰りに荷物を持ってもらいました。自分の荷物もあるのに、ぼくの荷物を持って歩くのは、すごくしんどかつたと思います。それなのに、毎日いやな顔もせず持つてくれて、すごく助かったのを覚えていきます。

こういう言葉をかけられて、学校などの友達は、友達どうして助け合うことが大切なことだとあらためて思いました。

やさしい言葉は、かけた方もかけられた方も、おたがいが明るくなるのではないのでしょうか。

最後に、ぼくのようにこまっついて、助けを必要としている人を見かけたら、ぼくを助けてくれた人のように、「どうしたの？」と声をかけたいです。他にも、「おこまりですか？〇〇しましょうか？」などとかけられたら良いなと思います。でもぼくは、声をかけるゆうきがなくて、そのゆうきを持ちたいです。

これから、このことをずっとわすれず、ふだんからやさしい言葉を使える人になりたいなと思っています。そのためには、やさしい言葉を使たくさん見つけて、それを使ってみたいです。